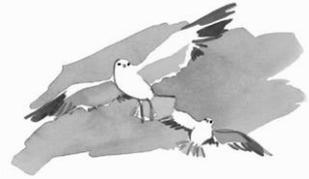




輝き

第20号

 令和3年2月16日
 TEL 059-229-2831


2月13日(土)23時7分ころ、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。東日本大震災からちょうど10年を迎える3月を目前に、その余震とみられる地震が発生し、最大震度6強のゆれが観測されました。津波の心配はないとのことでしたが、改めて自然災害の恐ろしさを見せつけられた思いがしました。コロナ禍の中、10年前の記憶がよみがえるような今回の地震に、被害にあわれた方々はどのように受け止めてみえるのか、今の私たちには想像すること、思いを寄せることしかできませんが、心からお見舞い申し上げます。そして受検を控えた現地の中学生にもエールを送りたいと思います。

私たちの地域においても、今世紀前半に発生する可能性が高いといわれている東南海・南海地震への備えを進めていかなければなりません。

以前にも紹介しましたが、大規模地震が発生した際、南が丘地区自主防災協議会は、築年数が新しく地震や津波の被害が少ないとされる南が丘地区では、自宅を避難所として使用することも一つの方法として紹介しています。また、避難所へ避難する場合も、水や食糧、薬、敷物等自身自身に必要な最低限の物品を持参することを勧めています。「備えあれば 憂いなし」日頃からの準備とともに、万が一の際の家族間の連絡方法や避難場所の確認など、この機会にぜひ話し合ってみてください。

やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ

人は誰でも、やさしくしてもらって嬉しかったということがあります。大人でも子どもでも、きっとたくさんあると思います。皆さんにとって、やさしくしてもらって嬉しかったことといえば、どんなことでしょうか。

教科書を忘れた時に、そっと見せてくれたり、落ち込んでいた時に、心配して声をかけてくれたり、困った時に、話を聞いてくれたり。やさしくするのもされるのも、とてもいいことです。何だか嬉しくなるし、温かい気持ちになります。いつでも、やさしくすることを心がけたいものです。

タイトルの「やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ」という言葉は、ねむの木学園の園長先生だった今は亡き宮城まり子さんの言葉です。宮城まり子さんは女優さんですが、すべての子どもに教育を受ける権利があると考え、1968年に日本で初めて体の不自由な子どもたちのための社会福祉施設である「ねむの木学園」をつくりました。今から50年以上も前のことです。

ねむの木学園の子どもたちと過ごす中で、宮城まり子さんは、「やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ」と周りの人に語り続けてきたのだと思います。体の不自由な子どもたちにとって、「やりたいことができない」、「行きたいところに行けない」など、思うようにならないことや苦しいこと、つらい思こともたくさんあったでしょう。しかし、ねむの木学園の子どもたちは、いつもやさしい。そんな姿に彼女自身が教えられたのではないのでしょうか。

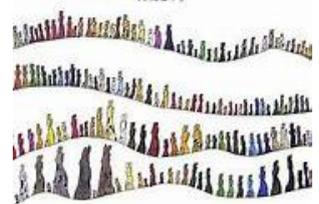
宮城さんが言う、「やさしいことはつよい」とは、どういう意味なのか、強いという言葉は、たとえば「力が強い」「芯が強い」と言います。「やさしいこと」と、「強いこと」は、正反対のような気もします。

私たちはよく、「やさしくしなさい」とか、「もっと、やさしく」と言われることがあります。ただ、いつもやさしくできるわけではありません。たとえば、友だちとけんかになった時はどうでしょう。ついイライラして相手のいやがることを言ったり、したりしませんか。自分自身が悲しい時やつらい時、疲れている時などもやさしくできないことがあります。そう考えると、いつでもやさしくすることは、けっこうむずかしいことなのです。

人は、自分の調子がよかったり、何かいいことがあったりすると、やさしくする気持ちになります。しかし、自分の体の調子や気分に関係なく、いつでも相手の気持ちになってやさしくしようとする、自分自身の気持ちに左右されない強さが必要になります。私たちにも、その強さが持てるとういいますね。そして、やさしくできない自分に気づいた時には、「やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいのよ」と、自分に語りかけてみませんか？



やさしくね

 やさしいことはつよいのよ
 宮城まり子


※「やさしくね やさしいことはつよいのよ」は、宮城まり子さんが、ねむの木学園創立40周年を記念して出版した単行本の題名となっています。ねむの木学園の子どもたちの絵に、すてきな詩が添えられている本です。）

誰一人取り残さない

「誰一人取り残さない」という言葉を聞いたことありますか？これは、「SDGs」がスローガンとして掲げているものです。最近よく耳にする「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」とは、「持続可能な開発目標」を意味するSustainable Development Goalsの略です。

2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には、2030年までに達成すべき国際目標として「持続可能な開発目標」が記載されました。地球上の「誰一人取り残さない～leave no one behind～」をスローガンに、そこには持続可能な世界を目指した17のゴールと169のターゲットが掲げられています。

言い換えれば、SDGsとは「2030年までに世界全体で目指す17の目標」となります。国連サミットで、目指す世界の姿として約束されたのが、「誰一人取り残さない世界」なのです。「そのために何ができるだろう？」と17個のゴールを決め、それをもう少し細かく169のターゲットとして詳細なものを決めました。更に、それぞれの具体的な数値目標を書いた244の指標（重複を除くと232の指標）がその下にあるので、3階立てになっていると思えば分かりやすいです。



「私たちには関係ない」と言われていられる状況でもありません。タイムリミットまであと9年です。日本の企業でも、SDGsを行動指針として掲げているところも多くなってきているようです。

では、私たちにとってSDGsとは？「誰一人取り残さない」と言うけれど、今の自分にできることは何でしょう。学級にいる時、授業中、休み時間、部活動の時間、トイレに行った時、登下校中、お店の中、近所、家の中などなど、色々な場面で考えてみると「あれ？取り残されそうな人、いるんじゃない？」ってなりませんか？周りが意識をしなければ気づかないこと、気づいてもらえないこと、取り残されてしまうことって案外起きてしまうのです。反対に、ちょっとした一言、ほんのわずかな視線、さりげない表情など、自分にもできる簡単な行動が、取り残されそうな誰かを救うことにもなるのです。前号で紹介した書き損じはがきの取り組みなど、表立った行動も大切ですが、ぜひ日常的な行動を広げていきたいものです。興味がある人は、SDGsの17の目標（ゴール）を調べてみてください。

活躍の足跡

- ◇ 全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト三重県選考会 フルート銀賞：2年 米山さん マリンバ金賞：2年 柴田さん 打楽器銀賞：2年 木田さん
- ◇ 中部日本個人・重奏コンテスト三重県大会 マリンバ独奏銀賞：2年 柴田さん
- ◇ 津市中ブロック小中書写展 出品：1年 杉山さん、長野さん、阪本さん、杉本さん、加藤さん、羽田さん、2年 大橋さん、王さん、中北さん、劉さん、阡陌さん、若林さん、中北さん、山口さん、3年 土岐さん、中西さん、三竿さん、小山さん、遠山さん、中谷さん



2・3月の主な行事予定です

2月17日(水)～19日(金)	3年三者懇談会	19日(金)	令和3年度前期生徒会役員選挙
24日(水)～26日(金)	1・2年学年末テスト		
24日(水)	3年実力テスト	22日(月)	1・2年給食終了
3月1日(月)	生徒会実行委員会	25日(木)	修了式
4日(木)	3年生給食終了		
5日(金)	3年生最終登校日(卒業式を除く)		
10日(水)	県立高校後期選抜		
12日(金)	卒業式(3年生のみ登校)		
18日(木)	県立高校合格発表		



毎日のお知らせや、子どもたちの学校での様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。c-minamigaoka で検索するとトップページへのリンクが表示されます。

